平成23年10月25日

各 位

上場会社名　株式会社 アイ・テック
代表者　代表取締役社長 大畑　榮一
（コード番号　9964）
問合せ先責任者　取締役経理部長 伏見　好史
（TEL　054-337-2001）

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成23年5月11日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

● 業績予想の修正について

平成24年3月期第2四半期（累計）連結業績予想数値の修正（平成23年4月1日～平成23年9月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	26,300	580	605	551	46.02
今回修正予想(B)	24,400	△368	△772	△662	△55.29
増減額(B-A)	△1,900	△948	△1,377	△1,213	
増減率(%)	△7.2	―	―	―	
（ご参考）前期第2四半期実績（平成23年3月期第2四半期）	24,886	745	△47	△67	△5.64

平成24年3月期通期連結業績予想数値の修正（平成23年4月1日～平成24年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	54,000	770	820	712	59.47
今回修正予想(B)	52,600	△225	△705	△645	△53.87
増減額(B-A)	△1,400	△995	△1,525	△1,357	
増減率(%)	△2.6	―	―	―	
（ご参考）前期実績（平成23年3月期）	50,744	662	△256	△391	△32.72

平成24年3月期第2四半期（累計）個別業績予想数値の修正（平成23年4月1日～平成23年9月30日）

	売上高	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	26,300	705	601	50.20
今回修正予想(B)	25,100	△442	△328	△27.39
増減額(B-A)	△1,200	△1,147	△929	
増減率(%)	△4.6	―	―	
（ご参考）前期第2四半期実績（平成23年3月期第2四半期）	24,585	△74	△70	△5.89

平成24年3月期通期個別業績予想数値の修正（平成23年4月1日～平成24年3月31日）

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	54,000	1,020	812	67.82
今回修正予想(B)	54,000	△310	△187	△15.62
増減額(B-A)	―	△1,330	△999	
増減率(%)	―	―	―	
（ご参考）前期実績（平成23年3月期）	50,725	△71	△147	△12.33

修正の理由

１．第２四半期累計期間

当社グループが所属する当鉄鋼流通加工業界におきましては、国内鋼材市況は昨年末頃ようやく底を打ち、年明けから本格的な価格上昇局面に転じた事に加え、３月に発生しました東日本大震災の復興需要の期待から、鋼材価格及び出荷量は共に堅調に推移するものと予想しておりましたが、流通在庫の増加等から５月頃より市況は弱含みに転じ、鋼材需要も力強さが無く引き続き厳しい状況が続いております。

売上高につきましては、前回予想時には鋼材市況の上昇局面にあり、需要期に向かい出荷量は回復傾向にあると共に鋼材価格についても堅調に推移するものと想定しておりましたが、鋼材需要は盛り上がりに欠け出荷量の伸び悩みに加え、鋼材価格も弱含みに推移したことから前回予想を下回る見込みであります。

収益面におきましては、当社主力のH型鋼及びコラムにつきましては鉄鋼メーカーとの先物契約から仕入価格は上昇傾向にある中、販売価格は下落となり収益率の低下を招く結果となり、その他の品種につきましても販売価格は同様に下落しており、当初想定した収益の確保は厳しいものとなりました。鉄骨請負事業につきましても鉄骨加工単価の大幅な下落から収益確保が厳しい状況となっております。

また、輸入鋼材の決済資金として米ドル／円の為替予約及び通貨オプション契約を行っており、急速な円高からこれらの契約に掛かる時価評価としてデリバティブ評価損356百万円及び為替差損109百万円が発生しております。これらの理由に基づき、第２四半期連結累計期間の業績予想を修正いたします。

なお、個別業績予想につきましても、同様の理由によるものであります。

２．通期

通期の業績予想につきましては、国内鋼材市況は現状一進一退で推移しているものの、国内大手鉄鋼メーカーは出荷価格の大幅な値下げを発表し、今後の鋼材市況は予断を許さない状況となっております。しかし、足下の鋼材出荷量は徐々に増加傾向を示しており、収益的には厳しさがあるものの、首都圏の再開発案件や東北の復興需要等から第３四半期以降の売上高は回復していくものと考えております。この様な状況ではあるものの依然として収益につきましては非常に厳しい状況が続く事が予想されます。当社グループといたしましては、積極的な販売活動に加え、一層の原価の低減や経費削減に努めて参りますが、第２四半期累計期間の修正に加え今後の状況を勘案して通期業績予想の見直しを行うものでありあます。また、営業外損益に計上される、デリバティブ評価損益につきましては、今後の為替動向に大きく左右され、予想が困難のため、今後の発生が見込まれるものは、通期業績予想に織り込んでおりませんので、為替相場が大きく変動した場合には業績に影響がでる可能性があります。

なお、個別業績予想につきましても、同様の理由によるものであります。

※　上記に掲載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績は、業況の変化により、上記予想数値と異なる場合があります。

以　上